



今冬季の課題を活かし万全な冬期体制を構築することを強く求める!

申4号雪害により発生した諸問題に関する申し入れ団体交渉報告

地本は4月5日申4号団体交渉を行いました。記録的豪雪となった今冬季に発生した問題を災害と済ませることなく、次期冬季の取り組みに活かして行くために議論を深めました。

1. 運行計画は前日の正午までに決定し、変更しないこと。また決定に際しては現場の意見を尊重すること。
(会社)状況の悪化により動かすとした決定を取り消すことがある。現場ができないと言っていれば動かさない。終日運休など止める判断が多かった。
(組合)現場は運行できないと言うが判断が遅れ、結局運休となった。判断、周知、手配に課題がある。
2. 始発の運行開始前のホーム除雪を徹底するとともに、列車運行と並行して除雪せざるを得ない場合は進捗状況を確認できる仕組みを構築すること。
(会社)始発までに2両分、以降極力最大両数分の除雪をお願いしているが想定を超えた降雪となり、除雪をしてもすぐに積雪し支社から応援で除雪を行っても間に合わなかった。
(組合)現地に行くまで状況が分からないのでタブレットで共有するべき。笠石残しも課題である。
3. 架線設備の破損を伴う E129 系パンタグラフ破損事象について、因果関係及び対策を明らかにすること。
4. E129 系の編成両数に霜切り装置(パンタグラフ等)を搭載すること。
(会社)原因ははっきりしないがパンタグラフ異常による車両側に原因があると考えている。
5. デスコン棒に関する教育・訓練について徹底するとともに、運輸区別の実態を明らかにすること。
6. デスコン棒の取り扱いは車両センター構内においては検修手配を基本とすること。
(組合)実物に触れて体験しなければ有効性がない。合同訓練で教育すれば全員体験する。
(会社)教育は最低でも机上で必ず行う。提案された内容含め検討する。検修に依頼することは問題ない。
7. 雪を抱えて停車した列車に対する『限流値増』の取り扱いについて考え方を明らかにすること。
(会社)雪を抱えた状態で取り扱う指示は行わない。
8. 新潟車両センター、長岡車両センター、及び新津運輸区構内の構内除雪に対する課題を今雪害に踏まえて明らかにすること。
9. 輸送指令と保線技術センターの連携を踏まえた除雪体制の課題を明らかにすること。
(会社)現在トレース中であり示せない。夏までには終えて時期冬季メニューの構築に入る。
10. 輸送指令社員の負担軽減策について考え方を明らかにすること。
(会社)必要な要員を確保し支社からも応援に入っている。
(組合)応援してこの超勤時間は過労死ラインである。運用指令に専念できる体制、又は2徹1日勤体制とすることを求める。
(会社)超勤が多いことは把握している。どこに比重があるか調査していく。
11. 災害等で長期にわたり工事ができない状況が発生した場合は、工事予算を次年度へ繰越すること。
(会社)雪害等で工事が行えない場合は必ずとはならないが、状況を見て調整し繰り越している。
12. 各寮・社宅の除雪機械、除雪用具の配備状況を明らかにするとともに、外部能力の活用(除雪業者手配)を含めた除雪に対する考え方を明らかにすること。
(会社)寮の用具は勤労課手配。社宅の自治会で除雪業者を委託する場合は勤労課の許可が必要である。